

EUR / JPY ユーロ円 月次レポート

前月振り返りと2026年7月の相場展望

発行日

July 1, 2026

対象期間

6月実績 / 7月展望

通貨ペア

EUR / JPY

発行頻度

Monthly

6月末レート（終値）

185.693

▼ -0.03%（6月月間騰落）

6月高値

186.314

6月安値

183.166

ECB金利

2.25%

BOJ金利

1.00%

今月のハイライト

6月はほぼ横ばい（月間-0.03%）となり、当社定点観測対象の主要5通貨ペア中で方向感が相対的に乏しい展開。ECBの利上げ（ユーロ高）と日銀の利上げ（円高）が両方向に作用し打ち消し合った

ECBが6月11日に0.25%利上げを実施（預金金利2.00%→2.25%）。ユーロ圏インフレ率は5月に前年比3.2%へ上昇し、利上げ再開となった

日銀は6月15～16日の会合で0.25%利上げを決定（0.75%→1.00%）。6月はECBと日銀がともに利上げを実施する展開で、日欧金利差（ECB 2.25% vs BOJ 1.00% = 1.25pp）は前月比ほぼ変わらず

中東情勢を巡る地政学リスク後退に伴う原油価格の落ち着きが、ユーロ圏インフレ見通しの改善につながり、7月ECB会合（7/23）での追加利上げ観測は大幅に後退。市場では据え置き見通しが優勢となっている

7月 基本シナリオ レンジ

182 - 188円

ECB据え置き・日銀現状維持での推移（確率50%）

日欧政策金利差

1.25pp

ECB・日銀ともに利上げで前月比ほぼ変わらず

始値

185.751

6月1日

高値

186.314

月中最高値

安値

183.166

月中最安値

月間騰落

-0.03%

-0.058円

6月の相場動向

6月のユーロ円は**185.75円でスタートし185.69円で終了**、月間-0.03%とほぼ横ばい。月中に186.31円まで上昇する場面もあったが、ECBの利上げ（ユーロ高要因）と日銀の利上げ（円高要因）が拮抗し、レンジ感の強い推移となった。

ECBは6月11日に**預金金利を2.00%→2.25%へ引き上げ**、利上げを再開した。ユーロは一時高値圏（186円台）をつけたが、中東情勢の安定化観測を受けた原油価格下落がユーロ圏インフレ見通しを改善させ、追加利上げ期待が後退。日銀の0.25%利上げと組み合わせり月末にかけて185円台前半に押し戻された。

主要イベントの影響

EU ECB 6月11日 利上げ

預金金利**2.00%→2.25%**に引き上げ、利上げを再開

エネルギー価格の上昇がインフレ率の押し上げ要因となった

その後は原油価格の落ち着きもあり、7月会合での追加利上げ観測は後退した

JP 日銀 6月15～16日 利上げ

0.75%→1.00%へ0.25%利上げ、7対1で決定

1995年以来の高水準

ECBと日銀がともに利上げを実施したことで、日欧金利差の変化は限定的だった

6月の総括

6月のユーロ円は「**ECBの利上げ vs 日銀の利上げ**」という双方向の力が打ち消し合い、月間-0.03%のほぼ横ばいに終わった。日欧金利差（1.25pp）は前月比ほぼ変わらず。7月は**ECBが据え置き方向**（原油価格の落ち着きなどを背景としたインフレ鈍化観測）に転じる一方、日銀の追加利上げ観測がくすぶる構図となり、ユーロ円にとってはやや円高圧力が強まりやすい地合いとなる。

7月の注目ポイント

7月の最大の焦点は①**7月23日 ECB政策会合**（原油価格の落ち着きやインフレ見通しの変化を受けて、据え置き観測が優勢）、②**7月31日 日銀会合**（追加利上げ観測は低確率だが言及があればユーロ円急落リスク）の2点。ECBがインフレ鈍化見通しを背景に一時停止姿勢を示せば日欧金利差の縮小観測が浮上しユーロ安・円高要因となる。一方、ユーロ圏の経済活動が持ち直せばユーロ高への転換もあり得る。

シナリオ別レンジ予測

強気	25%	ECB追加利上げ示唆・日銀据え置きで日欧金利差拡大	186 – 191円
基本	50%	ECB・日銀ともに現状維持でレンジ内推移	182 – 188円
弱気	25%	ECBがハト派転換・日銀追加利上げ示唆でユーロ円急落	177 – 184円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
ECBが7/23に追加利上げを示唆	低	ユーロ高	中東情勢の落ち着きや原油価格の安定を受けてインフレ鈍化観測が強まっており、追加利上げ観測は限定的。サプライズ的に追加引き締めが示唆されれば、186～191円方向への上昇要因となり得る
ECBがハト派姿勢に転換	中	ユーロ安	原油価格の落ち着きによりインフレ低下が進めば、ECBの引き締めスタンス後退が意識され、ユーロ売り圧力が高まる可能性がある
日銀が7/31会合で追加利上げ示唆	低	円高	市場では次回利上げ時期を年後半とみる向きが多い。ただし発言次第でキャリー解消が進み180円方向への急落リスクあり
中東情勢の進展と原油価格動向	中	双方向	地政学リスクの後退で原油価格が下落すれば、欧州インフレ圧力の低下を通じてECBのハト派化が意識され、ユーロ安要因となり得る。一方で、リスク選好の改善は円売り要因にもなり得る

7月の見通し

基本シナリオは**182～188円のレンジ推移**（確率50%）。日欧金利差（1.25pp）は前月比ほぼ変わらず。7月はECBが据え置き方向であることから、6月のような「両中銀同時利上げの拮抗」は起きにくく、日銀の追加利上げ観測がユーロ円の上値を徐々に抑える方向に働く可能性がある。

7/23 ECB→7/31 日銀の両会合の発言内容が次の方向感を決める。

用語解説

ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏の**中央銀行**。6月11日に預金金利を2.25%へ引き上げ、利上げを再開した。次回は7月23日。市場では据え置き見通しが優勢となっている。

政策金利 / 金利差

中央銀行が景気・物価調整のために設定する**基準金利**。政策金利ベースの日欧金利差はECB 2.25% – BOJ 1.00% = 1.25ppで、ユーロ円の方方向性に影響する。

ユーロ圏インフレ（HICP）

ユーロ圏の**消費者物価指数**。5月は前年比3.2%。その後、原油価格の落ち着きが续けばインフレ鈍化につながる可能性があり、ECBの政策方針に影響する。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。6月会合で1.00%に利上げ（1995年以来の高水準）。次回は7/31。市場では次回利上げ時期を年後半とみる向きが多い。

キャリートレード

低金利通貨（円）を借りて高金利通貨（ユーロ）で運用し**金利差から利益を得る取引**。日銀の追加利上げ観測はキャリー解消・円高のリスク要因となる。

中東情勢と原油価格

中東情勢の変化は原油価格を通じて各国の**インフレ見通し**や**中央銀行の政策判断**に影響を与えることがある。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報にかかる著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。